

標高・光達距離

日本一の

余部埼灯台(御崎の灯台)

香住町



余部埼灯台は毎夜休まず光を送り続けている。この光を見ると船の人々は陸へ帰ってきたとほっと安心する。

青い海に緑の山々、白い灯台がひときわ映える。



海からでないで見ることができない小さな灯台。



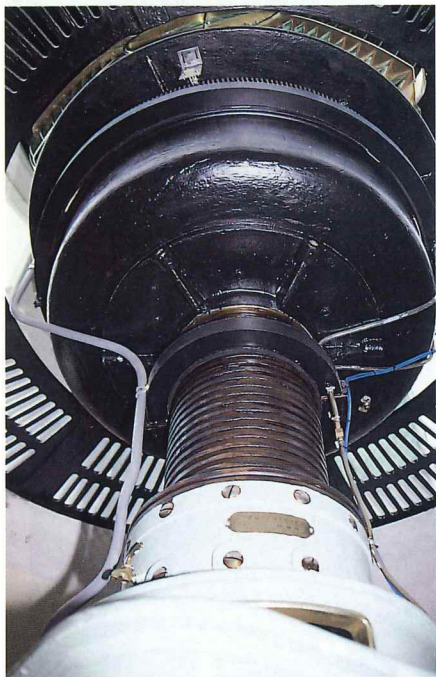
「灯台」とは船が安全に早く目的の場所へ行くようにする「海の道しるべ」のこと。灯台や霧笛などまとめて、航路標識と呼ばれています。陸の道しるべは道路標識、海の道しるべは航路標識。ふだん私たちが車を運転しているときに見ている道路標識と同じように、航路標識は海を走る船たちにとって、とても大切なものです。船が陸に近づき、2つ以上の灯台の光が同時に見えれば、それぞれの灯台の方向をはかって船の位置を知ることができます。但馬海岸には、たくさん漁港があり、カニ漁やイカ漁などたくさん船が行き来をしています。その船たちの安全を守っているのが灯台なのです。

平家の落人伝説が残る御崎の集落を抜け、くねくねとした道をさらに進むと、真っ白な余部埼灯台が海に向かって立っています。御崎の灯台の愛称で親しまれているので、こちらの名前でご存じの方が多いかもありませんが、正式名称は余部埼灯台。

昭和26年3月25日に完成、昭和60年に鉄筋コンクリートに建て直されました。水面から光が出るところまでは2841m。地上から

灯台のてっぺんまでは139m。光の届く距離は39.5海里で73km。日本で一番標高が高く、一番遠くへ光が届く灯台です。それは、地球が丸いので灯台の光が強くても、高くないと遠くまで届かないからです。光は白い光で15秒に1回ピカッと光ります。電球はメタルハライド電球(250W)で、電球交換装置に2個の電球があり、1個切れたら自動的に予備電球に切り替わります。レンズは3等大型閃光で、フレネルレンズ(光を屈折、反射するガラス)と呼ばれていて、プリズムのよう。灯台から強い光を出すために、光源から出た光を反射や屈折させて、特定の方向に集め、光の帯や束をつくるのです。

昭和36年頃までは、余部埼灯台に職員が常時いて管理をしていました。当時、灯台守の厳しい生活を描いた「喜びも悲しみも幾年月」という映画が大ヒットしたことから、灯台職員の家族の生活環境を良くしようという運動が起こり、機械化が進み、コンピューター制御の自動運転となって無人となりました。日光弁(センサー)によって自動的に夜になると点灯し、朝になったら消灯します。また、停電になっても発電機が自動的に作動



桶のような部分に比重の大きな水銀が入っていて、レンズを浮かし、ベアリングのかわりにしてスムーズにまわしている。



停電になっても大丈夫。発電装置が完備されている。



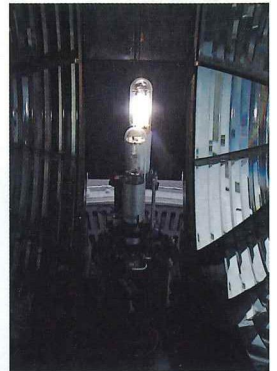
プリズムのようなレンズが何重にも重なっている。光が入るととても美しい。



時代を感じさせるプレートや蛇口部分。



レンズの奥にある電球が発光している。レンズを通すと大きな力になる。



するので、灯台は消えることはありません。機械が故障してもコンピューターが監視しているので、何かあれば無線で香住航路標識事務所に通報するようになっていきます。余部埼灯台をはじめ兵庫県北部沿岸を管理しているのは、香住海上保安庁の中にある香住航路標識事務所のみなさん。定期的に航路標識の点検・整備をし、灯台のレンズや窓ガラスをいつもきれいに磨いています。どんなに機械化が



コンピューター制御ですべて行われている。何かあっても事務所へ連絡がすぐはいる。

レンズが回転する部分、定期点検を怠りなくやっている。油を差したり、レンズをきれいに磨いたり忙しい。



現在、科学の進歩とともに灯台の役割も変わってきました。船の位置は衛星を使えば、どんな天候であろうと正確な数字が出ます。しかし、陸が近づき灯台の灯りが目に入ってくると、船の乗組員たちは「あー帰ってきたんだ」としみじみ感じるといいます。この安心感が海での生活を支えているのです。今日も余部埼灯台は日本海に向けて光を届け続けています。協力・香住航路標識事務所

進んでも、やはり地道な人の力が灯台を支えています。灯台にとって一番の天敵は雷。落雷にあつても大丈夫なように保護されていますが、大きな雷が直撃すると灯台のコンピューターシステムを全部壊してしまうこともあるとか。特に冬、雪おこしの雷がゴロゴロと鳴り始めると心配で生きた心地がしないといっています。日本一高い場所にある余部埼灯台は、よく霧などの雲の中に隠れてしまうことがあり、光が船に届かなくなってしまう。そこで、余部埼灯台のある山の突端の下にもう1つの灯台があり、いつも光を放っています。香住の遊覧船に乗れば、海から下のかわいい灯台を見ることが出来ます。

家族そろって但馬へ



- 但馬牛やひつじとのふれあい
- 但馬ビーフでステキな味わい
- そば打ちなども体験できるよ

ベアリフトで
花の展望台へ
日本海も望めるよ

●休園日/木曜日
(祝日と重なる場合は次の平日)

近くに湯村温泉もあるよ

- 但馬牛の歴史・文化は但馬牛博物館
- 人工芝ゲレンデでターフスキーやそり遊びも楽しいよ
- 交流センターまきばの宿(宿泊施設)で牧歌的な気分を



兵庫県美方郡温泉町丹土 1033 番地
 ■公園事務局 TEL (0796) 92-2641
 ■レストラン「ふるさと」・宿泊施設「交流センターまきばの宿」・スキー場のご予約・お問い合わせは TEL (0796) 92-1005